

市政に関する

一般質問

令和8年第2回定例会の一般質問には、21人の議員が登壇し、市政に関するさまざまな議論が展開されました。

各議員が行った質問のうち、1問についての質問・答弁を通告順に掲載しています。

なお、「問」部分については、各議員の草稿によるものです。



路上喫煙防止対策について

流政会 川本 大岳

問 令和8年第1回定例会の予算審査特別委員会で、井崎市長から「民間事業者より喫煙所設置に関する提案があり、協議を進める予定である」との答弁があったが、実際に協議が行われたのか。また、その進捗と結果はどうであったか。

答 **環境部長** 令和8年3月と5月にたばこの製造業者と協議をし、事業者から、設置できる喫煙所はパーティション型であることや、設置場所・設置費用の負担について提案がありました。当該



流山市総人口の

見通しについて

流政会 青野 直

問 市人口は令和4年4月1日現在20万5439人で、令和2年国勢調査確定値によると、人口増加率は全市区町村の中で1位となった。特に合計特殊出生率の1・56は全国値の1・30と比較高い水準にあるが、令和10年度の市人口の見通しは。

答 **総合政策部長** 本市の人口推計は、総合計画策定時の基礎資料の一つとして、平成30年3月に次期総合計画における将来人口推計調査報告書として取りまとめています。同報告書では、本市の人口は令和9年まで増加を続けた後、緩やかに減少すると推計されていますが、令和9年の高位推計21万3179人および令和10年の高位推計である21万1863人に對し、令和8年6月1日現在の住民基本台帳人口は21万6030人と上回っているため、直近の人口動向も踏まえて令和8年度版総合計画実施計画を策定したところです。また、次期総合計画の策定に向けた新たな人口推計を、令和9年度中に実施する予定です。

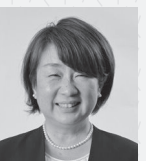


学校教材の備品化による 保護者負担軽減を

流政会 小沢 えみり

問 算数セットや彫刻刀セットなどを学校備品化する自治体がある。①市教育委員会として共有可能な教材の整理や、学校備品化について検討する考えはあるのか。②使用を終えた段階で寄付をお願いし、再活用する仕組みを検討してはどうか。

答 **学校教育部長** ①現在、市教育委員会として一律に品目を指定し備品化することは検討していませんが、児童にとって真に必要な教材を精査することで、保護者の負担軽減を図ることは重要で



災害時における

支援体制について

矢口 輝美

問 災害時における地域生活継続のための支援体制について、①在宅避難への取り組みはどうか。②個別避難計画作成の現状と課題認識はどうか。③自治会・福祉関係者・当事者団体などと連携した、共助・協働体制の構築が必要なのではないか。

答 **市民生活部長** ①自宅の安全が確保されている場合は、在宅避難を推奨しています。そのため、備蓄の重要性についての啓発や自主防災組織補助金の交付、福祉部局と連携した個別避難計画の作成、耐震診断や改修工事への補助などの取り組みを行っています。②健康福祉部長 ②優先作成対象者を約1000人と推計し、令和8年5月時点で218件が作成済みです。今後、訓練や研修を通じ実効性を高める必要があります。③多様な主体が深く連携した共助・協働体制の構築による地域防災力の向上が極めて重要と認識しています。平時の地域福祉施策の向上にもつながるため、今後も地域との連携を大切に各種施策を進めます。



都市計画道路 野々下思井線について

流政会 笠原 久恵

問 ①都市計画道路整備を行う区間と都市計画道路に限らない整備区間に分けた理由は何か。②整備による交通量の変化をどのように予測しているか。③通学児童・生徒や高齢者の安全確保の考えはどうか。④自転車ピクトグラムは整備予定か。

答 **土木部長** ①都市計画道路を基本とするものの、千葉県が施行する土地区画整理事業の区域外から八木川までの区間は非常に起伏が大きいいため、事業費を考慮し、さらに環境にも配慮して合理的



キラークンテンツで 外国人観光客誘致強化を

森田 洋一

問 観光客誘致には、そこにはないものが見られたり、雰囲気を感じられたりするキラークンテンツが重要である。みりん、神社仏閣、有形文化財など、観光資源を組み合わせ、流山市にはこれがあるといった売り方を模索していく段階では。

答 **経済振興部長** 本市は白みりん発祥の地であり、地域資源である白みりんを観光コンテンツの軸として、外国人観光客の誘致に努めています。令和7年度に台湾の旅行会社を訪問した際には、ローカル鉄道の流鉄と白みりんの2点を軸にPRしたところ、流山本町地域を組み込んだ旅行商品につながり、令和8年度に入って3回にわたり台湾からのツアー客が合計で67名訪れ、流鉄乗車後に白みりんミュージアムを訪れるというコースを楽しんでいただきました。このような実績を一つずつ重ねながら、引き続き全国各地域の方々の趣向などのトレンドを研究し、地域資源を生かした外国人観光客の誘致に努めてまいります。



夏の暑さから 命を守るまちへ

流政会 渡辺 仁二

問 ①熱中症を災害級リスクと捉え、保健・教育・防災・まちづくり部門など、全庁横断の推進体制を構築する考えはあるか。②地域行事や屋外イベントの熱中症対策に、ミスト装置や大型送風機などを市が整備し、自治会などへ貸与してはどうか。

答 **環境部長** ①熱中症対策は年々その重要度を増し、行政としても対策を検討する必要があります。部署により必要な対策などは異なるものの、全庁が危機感を持って取り組み